

# 「孤」解消へ カレーの集い

とかちの杜 廣江代表

## 帯広の「掛村」で子ども食堂

有料老人ホーム北勝館（首里）などを運営するとかちの杜の代表、廣江龍信さん（59）が今月、子ども食堂を帯広市内の中華料理店「十勝 Chinese 掛村」（西5南19）で開く。同店社長の掛村真二さん（52）が監修した十勝産食材を使ったカレーライスを提供する。廣江さんは「食堂を開くことで、子どもたちの「孤」が解消できれば」とPRしている。（高井翔大）

### 8日皮切りに今月6日間



きっかけは新型コロナウイルスだった。廣江さんが代表を務める老人ホーム北勝館で2021年1月、クラスター（感染者集団）が発生。利用者や地域に迷惑をかけてしまったの思いから、地域貢献できることは何かを考え、以前から関心があった子ども食堂を改めてやりたいとの思いが高まった。20年ほど前に知人の紹介で知り合い、親交が続いていた掛村さんに相談。「東京での仕事のため店を空ける期間があるので、そこを活用しては」と助言を受け、思いが形へと話が進んだ。食堂の開設日は8～10日、15～17日の6日間。時間は午後2～6時で、小学生を対象に20食ほどを1人100円程度で提供する。11月も5日間ほど予定する。

掛村さんは「食」は人を良くすると書く。手作りの物をかみしめてみんなで「おいしいね」と交流しながら食べるので、体にいいものになると思う。子どもたち同士でご飯を食べて人間形成や感謝の気持ちがある場所になれば」と思いを語る。廣江さんは、同店近くの帯広明星小と帯広第四中に通っていた。「この場所が育った。地域貢献でこの校区のためにやりたい」と意気込んでいる。詳細など問い合わせは北勝館の橋本絵梨子さん（0155・43・5331）へ。

子ども食堂を開く店舗の前に立つ廣江代表

（左）と掛村社長